

\* 風薫る5月、山も街も新緑にあふれ、四季のある日本の素晴らしさを肌で感じる季節です。一方、年々5月の最高気温は30℃を越える日が多くなり、6、7月には熱中症注意予報が出される日が続くようになっています。北極を含め、地上のいたるところに温暖化傾向が顕著になっていますが、これは地表だけでなく海温も上昇しており、海中に住むサンゴの命も危機に見舞われているというニュースが多く見られるようになりました。ご存知のようにサンゴは動物ですが動けません。生きていく為に褐虫藻という植物プランクトンの一種を体内に住まわせて、それが光合成して得た栄養を貰って育っていますが、地上の環境破壊による温暖化で海水温も上昇することも原因となり、褐虫藻がサンゴから離れてしまい、栄養が取れなくなり死滅しています。世界最大のサンゴ礁グレートバリアリーフも例外ではないようです。少しでも地上の環境破壊を止める工夫が求められています。

\* 東港金属株式会社は非鉄・スクラップの買取り、産業廃棄物処理を“いつでも”お受け致します。ヤードも広くなりました。身近なリサイクルパートナーとしてお気軽にご相談ください。



東港金属株式会社

東京都大田区京浜島2-20-4  
 電話 03-3790-1751  
 URL <http://www.tokometal.co.jp>  
 (見学受付)  
 電話03-3790-1751 又は 各営業担当



★羅針盤

- 鉄スクラップ → 考察) 鉄スクラップ価格は東京製鉄宇都宮工場の特級価格が30,500円/トンでスタートし、最終的には25,000円/トン。5,500円/トンも下がりました。今年最安値となる2月並の価格水準へ下落しました。下げの要因はアジア圏を中心とした輸出マーケットの低迷。5月に関しては、まだまだ下げが続くと思われます。
- 銅 → 考察) 5,900ドル/トン台、国内銅建値690,000円/トンでスタートし、為替が円高に振れた為一次は650,000/トン本年度の最安値まで落ちました。しかし最終的には、LME5,700ドル台まで回復し為替も112円まで戻したため660,000円/トン。5月に至っては、北朝鮮と米国間の問題等海外情勢次第では下がると考えられます。
- アルミ → 考察) 4月はLME1,970ドル/トン台でスタートし最終的には、1,970ドル/台とLMEに大きな動きはありませんでしたが、4月中旬から中国塊の下落などによりウワ物・スソ物共に3円~5円/kg下がりました。5月に関しては横ばいでしょう。
- プラスチック → 考察) 5月も4月同様、品位により有価にならないものが増えるでしょう。特にMIX物はより厳しくなると思われます。

4月予測の自己評価

鉄スクラップ	○	アルミ	×
銅	×	プラスチック	○

鉄・非鉄スクラップ・市況からの5月予測

営業部 Y の考察

★羅針盤

日常使われている大事な金属製品?

最も身近な金属とはなんですか? との問いに「鉄」と答える方が多いと思います。また、身近な金属製品は? と聞かれた場合には、食器類、飲料缶や缶詰等々と日々の生活に定着している製品群があげられることと思いますが、今回のテーマは、金属リサイクルを生業とする者として、知っておいて面白い、日常使われている大事な金属製品? である「日本の硬貨」についてのトレビアです。

現在、日本で製造される硬貨は、通常発行される1円、5円、10円、50円、100円、500円の各1種類ずつ6種類の貨幣と、記念貨幣に分けられます。貨幣の製造及び発行の権能は日本国政府にあります。貨幣の額面と硬貨製造費用との差額は政府のものとなり、年度末には税外収入として政府の一般会計に繰り入れられます。やや旧聞になりますが2015年度の造幣局予算から当時の貨幣発行益を見てみましょう。

2015年の各種硬貨の発行枚数実績は1円玉が約8,200万枚、5円玉が約1億500万枚、10円玉が約2億300万枚、50円玉が約4,700万枚、100円玉が約4億1,000万枚、500円玉が1億4,300万枚で、合計約9億9,000万枚(額面1,174億8,700万円)でした。

造幣局の2015年度予算を見ると、硬貨を製造する事業にかかる支出のうち、原料費は約26億円で、各硬貨が含有する金属の相場から計算した金額と概ね一致。さらに原料費以外の費用は約144億円で製造費用の合計は170億円となり、貨幣発行益は+1,005億円と推測できます。

筆者も読者の皆様も硬貨のコストが気になると思います。個々の硬貨の成分から相場変動はあるものの材料費の推定はできますが、加工費や流通費については推定が難しいので、2003年の古い資料ですが、個々の硬貨の貨幣発行益を見てみると結果は次の通りでした。

硬貨種類	1円	5円	10円	50円	100円	500円
発行益	-13円	+1円	-32円	+30円	+27円	+457円

また、また、個々の硬貨の成分は次表の通りです。(厚さは実測値)

コインの種類	材質	直径(mm)	孔径(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)
1円	アルミ100%	20		1.5	1
5円 (黄銅貨幣)	銅60~70% 亜鉛40~30%	22	5	1.5	3.75
10円 (青銅貨幣)	銅95% 亜鉛4~3% スズ1~2%	23.5		1.5	4.5
50円 (白銅貨幣)	銅75% ニッケル25%	21	4	1.7	4
100円 (白銅貨幣)	銅75% ニッケル25%	22.6		1.7	4.8
500円 (ニッケル黄銅貨幣)	銅72% 亜鉛20% ニッケル8%	26.5		1.8	7

硬貨については、まだまだ面白いトレビアがありますので、また回を改めて記載したいと思います。

参考資料: ZUU online編集部、Wikipedia(日本の硬貨)



「私のあゆみ」 (第2回)

こんにちは。ゴールデンウィークも終わり、5月病が始める時期ではないでしょうか。連休の疲れに負けず、きちんと体調を管理しましょう。前回は大学生で頑張った学生ボランティア団体CHILE(ちいれる)の活動について書きました。この活動の中で、実際に支援国のバングラデシュ訪問も出来ました。そこで、今回は現地へ訪問出来た経緯をお話致します。

バングラデシュ人民共和国は、インドの東に位置し人口密度(1,088人/km<sup>2</sup>)が世界7位の国です。南部はベンガル湾に面しており首都はダッカです。熱帯気候の為、雨季にはサイクロンにより被害を受けやすい国です。そして貧困国として知られています。

CHILEに所属した理由が友達作り程度の私が、この情報だけで最初から支援国を訪問したい気持ちになった訳ではありません。

1年生の頃は、先輩の活動を見るのみでしたので、一緒に活動させて頂いていた時間は月に3回程度の2時間の会議だけでしたし、活動に専念するはずが有りません。現地訪問は先輩が行けば何も私が行かなくてもよいと考えた為、その時期は、家族旅行をしていました。

そんな1年の夏でしたが、訪問を終えた先輩方の活動報告は、印象に残っています。何故なら、募金で建てられた2校目学校や現地の子どもの様子を学ぶ事が出来き、貧困国だから、飢えた子どもばかりに違いないという恐ろしい印象を消す様な発表だったからです。私が卒業するまであと2回訪問の機会があったのでその際には、1回は自分が後輩として、2回目は上級生として参加したいという気持ちが増えました。

2年目の夏前、バングラデシュ訪問の話が出ました。もちろん、私は参加する気が満々でした。まだ、仲良く出来てない同期もいましたし、この機会に打ち解けられたらという期待もありました。当時は、未成年で親の承諾が必要だったので父親にその相談をしました。もちろん、心配するのが親ですので、すんなり承を得る事は出来るはずがありません。

「何故、衛生面の悪い危険な国へ行くのか」「訪問する意味はあるのか」という質問に答えられませんでした。返答はできなかったのですが、現地へ訪問したい気持ちは消えず、CHILEで活動を続けていました。2年目は、バングラデシュへ行けない代わりにゼミ旅行へ参加したりして気を紛らわせて、訪ずれたい理由を探していました。

バングラデシュへ訪問する為にCHILEの活動とは別に課題を見つける必要があると考えました。そして、ゼミを通して支援を研究すると決め、資料を探し、纏める事で現地の環境を学ぶ事に専念しました。それによって、訪問への思いが強くなりました。

3年目の春終わり頃、またバングラデシュ訪問の話が出ました。当時は現地の知識を少し身につけ、CHILEで活動した結果の確認と、卒業論文の為の情報収集という自分が訪問する理由もありました。訪問の目的が明確になった為、両親に自分の考えを伝える事ができました。これによって、自ら行動する必要性を実感致しました。

今回はバングラデシュへ対する思いの変化を書きました。次回は、実際に現地で見聞きた事をお話します。

ご熟読ありがとうございました。 営業部(若松いさ子)